

45 度線の理論

有効需要 effective demand の大きさは投資需要の大きさによって定まる。現実の GDP は有効需要水準に定まる傾向がある。

I. 投資需要 (I) が定まった場合の均衡の GDP

A. 総需要関数

$$AD = C + I = cY + A$$

$A = C_0 + I$: 自律的需要 (GDP の水準と独立に定まるとしてよい需要)

B. 総需要を GDP に一致 ($AD = Y$) させる GDP の水準

1. 均衡条件

$$Y = cY + A \rightarrow Y^* = \frac{1}{1-c} \cdot A = \frac{1}{1-c} \cdot (C_0 + I)$$

例 $c = 0.8, C_0 = 10, I = 90$

$$Y = 0.8Y + 100 \rightarrow Y^* = \frac{1}{1-0.8} \times 100 = 5 \times 100 = 500$$

2. 会計上の恒等式と理論上の均衡式: $Y = C + I$

a. 会計上の恒等式の I : 事後の (実現した) 投資支出

b. 理論上の均衡式の I : 事前の (計画された) 投資支出 —— 投資需要

II. 均衡の安定性

A. 現実の GDP (Y) が均衡の GDP (Y^*) より大きい場合

1. 需要不足 (供給過剰)

a. 総生産 > 総需要: $Y > cY + A$

b. 事後の投資 (実現した投資) > 事前の投資 (計画された投資)

2. 生産の縮小

在庫増 $\rightarrow$ 注文減 $\rightarrow$ 生産縮小

B. 現実の GDP (Y) が均衡の GDP (Y^*) より小さい場合

1. 需要過剰 (供給不足)

a. 総生産 < 総需要: $Y < cY + A$

b. 事後の投資 (実現した投資) < 事前の投資 (計画された投資)

2. 生産の拡大

在庫減 $\rightarrow$ 注文増 $\rightarrow$ 生産拡大

参考文献

教科書, 第 2 章, とくに 41-52 ページ.